

# 東京医療保健大学

[ TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY ]

## 地域・病院と連携した 実践重視の教育で 高い専門性と成長力を 兼ね備えた看護師を育成

2005年の開設以来、医療現場に数多くの看護師を輩出してきた東京医療保健大学。最新医療にも対応できる高度な専門性・実践力と患者に寄り添う温かい人間性を養うことを目指す同大学では、どのような教育が行われているのだろうか。山西文子副学長に話を伺った。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／坂本ひろし



東が丘看護学部が設置されている国立病院機構キャンパス

### 全国に5学部7拠点を 擁する医療系大学

東京医療保健大学は看護師を中心とした専門職を育成する医療系大学。東京都、千葉県、和歌山県に5学部7拠点を擁し、看護系の大学としては国内でも有数の規模を誇る。大学院教育も充実しており、2021年に新たに千葉

看護学研究科が設置されて4研究科体制となっており、NP（診療看護師）、助産師、保健師を大学院教育で育成している（図1）。

運営母体は渋谷教育学園渋谷高校、渋谷教育学園幕張高校と同じ学校法人グループであり、両高校の教育理念である「自調自考」（自ら調べ、自らの頭で考える）の精神は同大学の教育にも通じている。

この考え方を基本に、同大学は建学の精神として「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を掲げ、図2に示したような専門教育・人間教育に体系的に取り組んでいる。

「高度な実践力とともに、患者さんの命に関わるクリティカルな局面で、自分で



副学長  
山西文子教授

考え、的確に判断し、行動できる自律的な看護師を育てることが本学の目標です」（山西文子副学長）

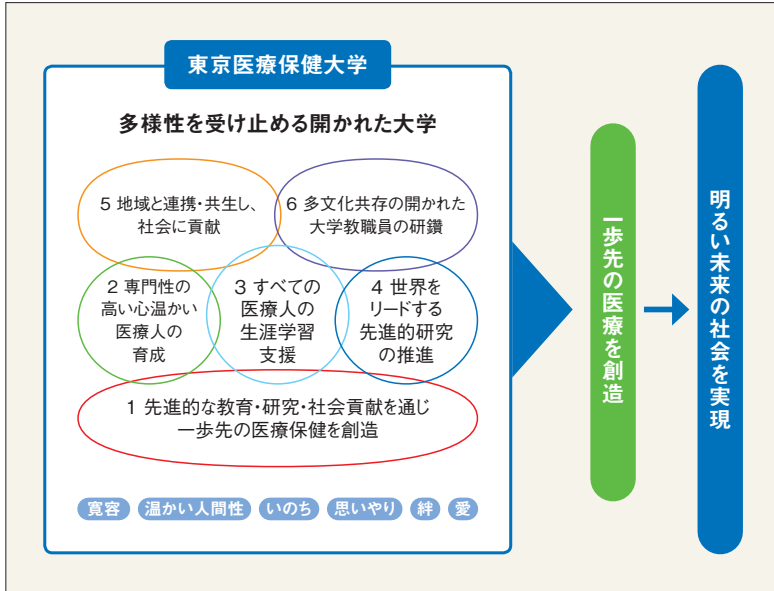
では、そのために具体的にはどのような教育を行っているのか。山西副学長が強調するのは実習先である病院との協体制だ。

「医療保健学部はNTT東日本関東病院、東が丘看護学部・立川看護学部は国立病院機構、和歌山看護学部は日本赤十字社和歌山医療センター、千葉看護学部は地域医療機能推進機構（JCHO）と各学部がそれぞれに先進的な医療に取り組む総合病院と連携しているので、学生は在学中に多様で高度な現場を経験することができます」

### 図1 東京医療保健大学の学部・研究科構成

学部	医療保健学部	看護学科
		医療栄養学科
		医療情報学科
	東が丘看護学部	看護学科
	立川看護学部	看護学科
千葉看護学部	看護学科	
	和歌山看護学部	看護学科
専攻科	助産学専攻科	
大学院	医療保健学研究科	
	看護学研究科 (NPコース、助産コース、公衆衛生コース)	
	和歌山看護学研究科	
	千葉看護学研究科(2021年4月開設)	

図2 東京医療保健大学のビジョンイメージ



これらの実習先との連携を軸に各学部が具体的にどのような教育に取り組んでいるのかを見ていこう。

医療保健学部は同大学では唯一3学科体制を採っている。医療栄養学科はチーム医療の一員として活躍する管理栄養士を、医療情報学科は医療情報システムの開発者やカルテデータの管理・運用を行う診療情報管理士を育成する学科。

「4年次には、3学科合同の『協働実践演習』に取り組みます。学生時代にチーム医療に必要な考え方やコミュニケーション力を養う有益な機会となっています」

### 災害看護学が学べる立川看護学部

東が丘看護学部が重点を置くのは実践力の強化。

「実習は1年次前期 Semester からスタートします。間を空けずに講義→学内演習→臨床実習のサイクルを4年間繰り返す往還型学修によって、幅広い知識や実践的看護技術を着実に身につけることができます」(図3)

立川看護学部も実践力の強化を重視している点は東が丘と同様だが、全国でも数少ない災害看護学コースが設けられているのが大きな特色だ。

DMAT (災害派遣医療チーム)を擁する国立病院機構災害医療センターとの連携により、災害訓練などを通して初期治療やトリアージ、患者受け入れ病院の初期対応などを現場のプロから学ぶことができる。

千葉看護学部は地域医療機能推進機構 (JCHO) や船橋市との連携による地域に根ざした実践教育を通して、地域完結型医療と地域包括ケアを

学べるのが大きな特色。

同様に和歌山看護学部も、総合病院における最先端医療から訪問看護まで幅広く教育し、和歌山県の地域医療を支える看護師を育成する。

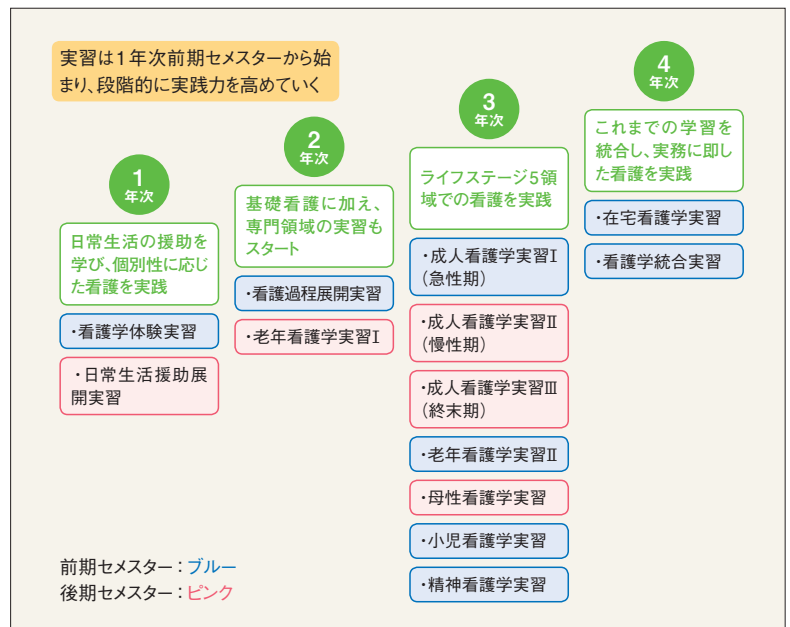
これらの学部に加えて、大学院では、現役看護師のスキルアップ、キャリアアップにつながる高度な教育を提供。例えば、看護学研究科には、初期医療にも対応できる診療看護師 (ナース・プラクティショナー: NP) を育成する「高度実践看護コース」が設けられており、医療の現場からも注目されているという。

### 多様なキャリア志向に対応した教育を提供

「これからの看護師のキャリアはますます多様化していきます。先進医療や災害医療、NPなど、専門性の高い領域で活躍する道も広がっていますし、地域に根ざした訪問看護も人材が不足し、ニーズが高まっています。自分が目指す看護師像に合わせて最適な学びの場を選択できることが本学の強みですね」

では、同大学の学生は、4年間を通してどのように学び、どのように成長していくのだろうか。卒業生2人の事例を次ページで紹介しよう。

図3 東が丘看護学部の4年間の実習スケジュール (4年間25単位)



## 現場の課題に向き合い、自分で考える看護師になりたい

### 入学後1カ月で実習がスタート

看護師を目指すようになったのは中学2年のときです。入院した友人が看護師さんとすごく打ち解けていたのを見て、不安を抱えている患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼関係を築くその仕事に魅力を感じました。その後、3回看護体



東が丘・立川看護学部  
看護学科臨床看護学コース卒業  
瀧 結友さん

東京都・東京高校出身。2021年3月に東が丘・立川看護学部(現在は改組)を卒業し、同年4月、国立病院機構東京医療センターに就職。

験に参加し、憧れが確信になりました。

東京医療保健大学に入学して1カ月後から実習が始まり、現場を経験したことで学びへのスイッチが入りました。目指す看護師像が明確になり、主体的に学べるようになったと思います。この大学では、ひとつのテーマを、講義のあと、間を空けずに演習、実習で手を動かし、現場に出て学べるので理解を深めやすかったことも私にとってはプラスでした。

### 興味深かった論理学の授業

印象に残っている授業は3年次に半年間かけて履修した各論実習ですね。急性期・慢性期・終末期・老年・母性・小児・精神の各領域について、実際に患者さんと接しながら多くの気づきを得ることができました。なかでも終末期の実習はリアルに生と死に向き合った経験として今も忘れることはできません。

また、4年制大学ならではの一般教養

科目では「論理学」が興味深かったですね。出生前診断など、医療の世界でも見解が分かれるテーマなどをディスカッションするのですが、人によって多様な考え方があることが理解できましたし、自分の意見を人に伝えるためにはどのように論点整理をすればいいかといったことが学べました。

患者さんの人生や生命に関わる仕事ですから、答えが出ない問題にもきちんと向き合い、考え続けることはすごく大切だと感じています。“私はこう考える”が自分にないと、患者さんに何かを尋ねられても真摯に答えられないからです。

今後のキャリアは幅広く考えていますが、今は、患者さんに寄り添い、深く関わることができる終末期医療に関心をもっています。また、自分が学んだこと、影響を受けたことをチーム全体に広げていくために、看護師長などへのキャリアアップにも魅力を感じています。

## 実習を通して疾患ではなく患者さん自身を見る大切さを学んだ

### 最新の医療が学べる大学へ

高校2年のとき、進路を考えるに当たって、もともと人と接するのが好きだったこと、さらに看護師である母親のアドバイスもあって看護師になろうと決めました。最近では男性看護師も増えていますし、抵抗感はありませんでした。むしろ男性だからこそ貢献できることもあるはずだと考えていました。

進学に際しては、現場で最新の医療を学びたいという思いがあったので、難しい手術なども数多く手掛けているNTT東日本関東病院と提携する東京医療保健大学を選びました。

自分の力になったと感じる授業のひとつが3年次に履修した「チーム活動論」です。組織として動くときに大切なことは何か、どうすればチームで成果を出せるかといったことを、メンバーとしての視点、リーダーとしての視点の両方か

ら学べたことは、これから現場で働くうえで確実に生きてくると思います。

また、4年次の協働実践演習では、医療栄養学科、医療情報学科の学生とのグループワークを通して他職種と連携したチーム医療についても実践的に学ぶことができました。

もうひとつ、3年次に参加した海外研修も印象に残っています。10日間、オーストラリアにホームステイして英語研修や病院・施設の見学などを行ったのですが、将来は国際的な領域の看護にも興味をもっているため、その土台となる経験となったと思います。

### 将来は地域医療にも取り組みたい

実習を通して学んだのは、疾患を見るのではなく、広い視野で患者さん自身を見ることの大切さです。だから、できるだけ患者さんと関わる時間を多く取るように意識しました。患者さんと医師をつ



医療保健学部看護学科卒業  
土門航太郎さん

北海道小樽桜陽高校出身。2021年3月に医療保健学部看護学科を卒業し、同年4月、東邦大学医療センターに就職。

なくとも看護師の重要な役割であることも実習を通して認識しました。

北海道出身なのでゆくゆくは地域医療に取り組むことも考えていますし、外国人の患者さんに対応する仕事にも興味をもっていますが、今はまず救急医療の現場で幅広い知識と実践力を養いたいと考えています。